

第 8 回デフビーチバレーボール国際親善大会 開催概要(案)

開催趣旨

本大会はデフビーチバレーボールの国際大会を大分市中心部で開催することにより、デフリンピック東京 2025 の開催を記念し、デフスポーツの認知度向上と普及促進を図るとともに、国際交流を通じて選手の競技力向上と相互理解を深め、地域の国際化を推進します。また、障がい者と健常者がともに参加・交流できる共生社会実現のためのプラットフォームを構築し、都市型ビーチスポーツという新たな形態の確立により、中心市街地の活性化に寄与します。さらに、スポーツを通じた SDGs 推進と環境意識向上を図ります。

大会概要

項目	内容
大会名称	第 8 回デフビーチバレーボール国際親善大会
主催	一般社団法人日本デフビーチバレーボール協会
共催	大分都心まちづくり委員会
後援(予定)	大分県、大分市、大分県障がい者スポーツ協会、一般財団法人全日本ろうあ連盟、大分合同新聞社、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、社会福祉法人大分県聴覚障害者協会、公益社団法人大分県言語聴覚士協会
協力(予定)	大分県バレーボール協会、大分県立聾学校、平松学園、NPO 法人 Cherim boat、大分大学手話サークルたなごころ
開催日時	2025 年 6 月 21 日(土) 9:00~20:00、22 日(日) 9:00~15:00 ※設営日：2025 年 6 月 18 日(水)~20 日(金)
開催場所	大分市「トヨタカローラ大分祝祭の広場」特設ビーチコート
来場者見込み	延べ 3,000 人(前回大会 2,200 人)
参加チーム	男女各 3 カ国(日本代表 4 チーム、ポーランド、他招待国 1 カ国調整中)
参加料	無料(事前申込不要)

実施内容

1. 競技プログラム

デフビーチバレーボール国際トーナメント戦を中心に、特別企画として日本代表選手と国際選手による混合チームでのエキシビジョンマッチを実施します。これにより、トップレベルの競技を観戦する機会を提供するとともに、国際的な技術交流の場を創出します。参加チームとしては、日本代表 4 チームに加え、ポーランド、そして新規招待国 1 カ国の男女計 4 チームを海外から招聘

し、国際色豊かな大会を実現します。

2. 交流プログラム

選手と市民が直接対話できる交流会を設け、言語の壁を超えたコミュニケーションの場を提供します。また、海外選手団による自国の文化紹介プレゼンテーションを行い、スポーツを通じた文化交流を促進します。さらに、手話ワークショップを開催し、聴覚障がい者とのコミュニケーション方法を体験的に学ぶ機会を設けることで、相互理解を深め、インクルーシブな社会環境の構築に貢献します。

3. 体験プログラム

車いすレーサーやハンドサイクルなどのパラスポーツを市民が実際に体験できるコーナーを設置し、デフビーチバレーボールの体験教室も開催します。また、児童向け運動療育ダンス「コモドテポン」の体験会を実施し、子どもたちが楽しみながら運動能力を向上させる機会を提供します。これらの体験を通じて、障がいの有無に関わらずスポーツの楽しさを共有し、相互理解を促進します。

4. 環境・SDGs 関連プログラム

大会の1週間前の週末に大分市田ノ浦海岸でビーチクリーン活動を実施します。この活動は地域メディアへの積極的な呼びかけにより事前広報を行い、大会当日の集客にも結びつけます。清掃活動を通じて海洋環境保護の重要性を参加者に実感してもらうとともに、大会との連動性を高めます。また、環境教育ワークショップやサステナブルスポーツイベント宣言式典を通じて、スポーツと環境保全の関連性について考える機会を提供し、持続可能な社会づくりへの意識を高めます。

5. 特設砂場ビーチエリア

当日会場には子どもたちが自由に遊べる特設砂場ビーチを設営します。この砂場スペースでは、児童発達支援及び放課後等デイサービスの多機能事業所に呼びかけ、専門スタッフによる砂場での運動療育指導（遊び）を行います。障がいのある子もいない子も一緒に砂に触れ、感覚統合を促進する活動を通して、インクルーシブな遊び場を創出します。これにより、幼少期からの共生意識の醸成と発達支援を同時に実現します。

6. デジタル展開

前回大会で実施できなかったデジタル展開を強化します。大会公式動画チャンネルによるライブ配信を行い、手話通訳付き同時配信も実施することで、会場に来られない方々にも大会の魅力を届けます。また、SNSを活用した大会情報

発信も積極的に行い、オンラインでの参加感を高めることで、より多くの人々にデフスポーツの魅力と価値を伝えます。これにより、デフスポーツの認知度向上とアクセシビリティの改善を同時に実現します。

7. 地域連携施策

地元商店街との連携により「国際交流グルメフェア」を開催し、参加各国の料理を味わえるブースを設置します。地元企業とのコラボレーションによるプロモーション展開も行い、大会を地域全体で盛り上げる体制を構築します。また、市内児童福祉施設へのデフアスリート派遣プログラムを実施し、大会前から子どもたちがデフスポーツに触れる機会を創出します。これらの取り組みを通じて、地域経済の活性化と地域全体での共生社会実現への意識向上を図ります。

期待される効果

1. 国際交流の促進と地域の国際化

海外選手団と地域住民の直接交流により相互理解が深まり、言語や文化の違いを超えたコミュニケーションの重要性を実感する機会となります。障がい者スポーツを通じた国際的なネットワークが構築され、大分市の国際的知名度向上と国際交流拠点としての地位確立にも寄与します。また、多様な文化や価値観への理解が促進され、地域社会の国際化と多文化共生の素地が形成されることにより、今後のグローバル社会に対応できる地域づくりに貢献します。

2. 共生社会実現への貢献

デフスポーツの認知度向上により障がい者への理解が促進されます。手話言語の普及と新しいコミュニケーション方法の社会的受容が進み、インクルーシブなスポーツイベントモデルが確立されることで、障がいの有無に関わらず誰もが参加できる社会環境づくりに貢献します。特に特設砂場ビーチでの運動療育指導は、障がいのある子どもたちの社会参加機会を創出するとともに、幼少期からのインクルーシブな環境づくりの重要性を地域社会に示す効果があります。これらの取り組みを通じて、共生社会の理念が地域に浸透し、実践的な共生の場が広がることが期待されます。

3. 都市活性化と新たな価値創造

市街地特設ビーチコートという従来にない取り組みにより、都市型スポーツの新たな可能性を提示します。中心市街地への来訪者増加による経済効果が期待され、スポーツを通じた都市のブランディングが強化されます。また、従来の都市空間の活用方法に新たな視点を取り入れることで、都市の魅力向上と市民の居場所づくりにも貢献します。「都市型ビーチスポーツ」の成功モデルを確

立することで、大分発の新たな都市活性化手法として全国に展開できる可能性を持っています。

4. SDGs 達成への貢献

田ノ浦海岸でのビーチクリーン活動と連動させることで、海洋環境保護の実践と啓発を同時に行うことができます。環境に配慮したスポーツイベントの実施ノウハウが蓄積され、参加者の環境意識向上と持続可能な地域社会づくりが促進されます。特にスポーツイベントと環境保全活動を有機的に結びつけることで、楽しみながら社会課題に取り組む機会を創出し、幅広い層の参加を促すことができます。これらの取り組みは、SDGs の目標 14（海の豊かさを守ろう）や目標 11（住み続けられるまちづくりを）、目標 17（パートナーシップで目標を達成しよう）など、複数の目標達成に貢献します。

5. 競技力向上と選手育成

国際大会を通じた日本代表選手の競技力向上が図られ、次世代デフアスリートの発掘・育成につながります。また、国際交流を通じてデフスポーツの技術的・戦術的発展が促進されます。特に若い世代に対してデフスポーツの魅力を伝えることで、将来的な競技人口の拡大と競技レベルの向上が期待されます。日本代表選手が国際舞台で活躍する姿を直接見せることで、障がいのある子どもたちにとってのロールモデルを提示し、スポーツを通じた自己実現の可能性を広げる効果も期待できます。

実施スケジュール（準備期間）

令和6年12月に大分市まちなみ企画課への会場使用申請を済ませており、令和7年3月から支援企業獲得活動を開始しております。令和7年4月にはスタッフや委託業者の確保および見積依頼を開始し、令和7年5月には媒体広報活動、発表会場手配、ボランティアの手配に着手します。令和7年6月12日にはバンケット会場でのプレス発表を実施し、令和7年6月18日から会場施行および特設コート施行を開始する予定です。

お問い合わせ先

一般社団法人日本デフビーチバレーボール協会